

# 地方経済情報 Weekly No.348

## キャンプで地域の魅力を発信

### 1. キャンプはコロナ禍でも根強い人気

「密」が避けられるレジャーとして注目されるキャンプ。アミュプラザくまもとや、鶴屋百貨店 New-S に相次いでアウトドア専門店がオープンするなど、熱気を感じます。

日本オートキャンプ協会によると、全国のオートキャンプ参加人口は2012年の720万人から年々増加し、コロナ禍前の2019年には860万人に達しています(図表1)。コロナ禍で2020年は610万人に落ち込んだものの、2021年は750万人と大きく回復しています。市場規模についても、2021年は3,074億円となることが見込まれています(図表2)。

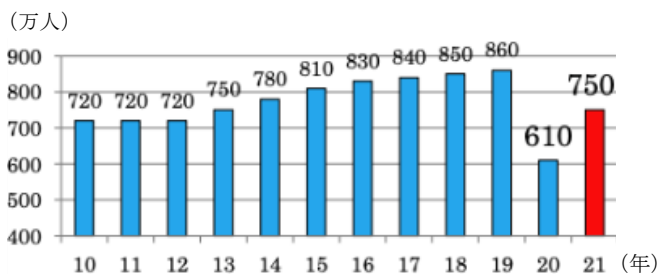
### 2. 北熊本「温キャン」聖地宣言

キャンプ人気が高まる中、熊本県北地域(玉名市、山鹿市、菊池市、和水町)は「温キャン(温泉×キャンプ)の聖地」であることを宣言しています(図表3)。地域内に数多く存在する温泉とキャンプを組合わせた「温キャン」を新たなキャンプスタイルとして提案し、地域の魅力を発信しています。

### 3. 地域ならではの魅力を高める

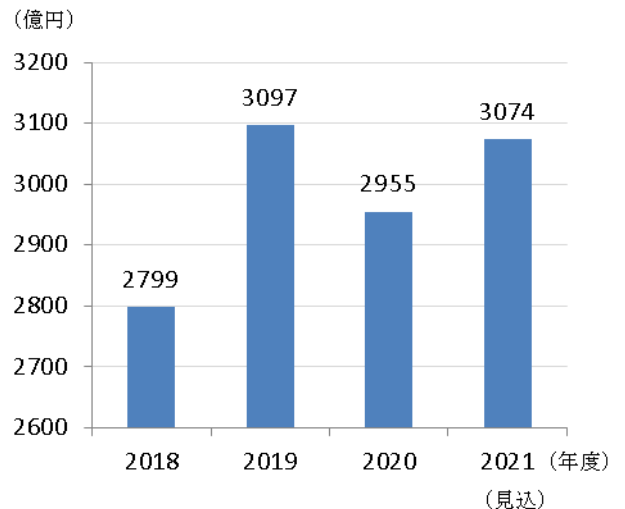
地域の自然や食など、キャンプによって伝えられる魅力は多いと考えられます。キャンプと地域の資源を組合せ、磨くことでさらなる価値創造に繋がります。また、関係人口を創出し、地域の活性化にも繋がっていくものと思われれます。

〔図表1〕 オートキャンプ参加人口の推移



資料：日本オートキャンプ協会「オートキャンプ白書2022」

〔図表2〕 国内アウトドア用品・施設・レンタル市場規模推移・予測



資料：(株)矢野経済研究所「2022 アウトドアビジネス」より当研究所作成

〔図表3〕 北熊本「温キャン」聖地宣言



資料：菊池市プレスリリースより